働く男のライフスタイル情報紙

Biz [ビズスタ] Life Style 特別版

2017 12

『Biz Life Style』は東京、神奈川、名古屋、関西、京都・滋賀、仙台、福岡、広島にて62万部発行
下記URLまでアクセスを。
www.biz-s.jp

広告掲載に関するお問い合わせ・申し込みは
TEL.03-6854-7001　FAX.03-6854-7005
企画・制作／株式会社デイリースポーツ案内広告社
〒1100-0015 東京都台東区東上野4-8-1 TIXTOWER UENO 14F
©2017 DAILY ADVERTISING AGENCY CO.,LTD

掲載した商品の価格は平成29年11月21日時点のものです。価格や仕様は予告なしに変わることがございます。

Eric Sauvage © Cartier

Panthère de Cartier

パンテール ドゥ カルティエ

30年後の世界に再び響く女性賛歌。

それは年輪を感じさせる豊かな知性であったり、あるいは何ものにも囚われない自由な生き方であったり。大人の趣味の代表的分野である高級機械式腕時計の世界は、時を告げる機械に「デザイン」という概念が産まれたことで一気に深みを増した。時間を知る道具を服のように「着る」現在のウォッチの愉しみは、このメゾンの功績が極めて大きい。

実に15を数えたという各国王室の御用達であったことから「王の宝石商、宝石商の王」と讃えられた「カルティエ」は、1847年パリで創業した。機構の誕生以来、時計業界は「いかに精緻なメカニズムであるか」を長く競い合っていたが、カルティエは「美を味わう」というその後のスタイルを決定付けたのだ。

腕時計のブランドは、一般にムーブメントと呼ばれる機構部分の製造技術を有する「ウォッチメーカー」と、それを包むケース部分を手がける「ジュエラー」に大別できる。ウォッチの大半は、両者が専門外の部分を委ね合いながら製品化されている。貴金属の分野で確固たる地位を築いたカルティエはジュエラーの代表格だったが、やがてムーブメントづくりの世界へと進出。すべての製造工程を自社内で完結することができる、世界でも数少ない「マニュファクチュール」へと成長を遂げ、現在に至っている。

80年代の名作が突如甦る 世界が驚いた新作コレクション

女性向けのジュエリーウォッチを1800年代後半には制作し、もともと宝石商であった出自からも想像できる通り、人々を圧倒する美の世界は、女性向けのコレクションでも存分に発揮されてきた。たとえば、「パンテール ドゥ カルティエ」は、ファッションカルチャーが世界的に花開いた1980年代の活気と退廃を見事に表現し、人気を博した名作だ。時計とジュエリーは非常に近しい関係にあるが、宝石やブレスレットと完全に溶け合うような「官能的な美」にまで引き上げたウォッチデザインは、同社の最高峰のひとつとして多くの女性たちの記憶に留まってきた。

そして、今年1月の国際高級時計展「SIHH」で突如新作コレクションが発表され、世界中のブレスや顧客を色めき立たせた。新生「パンテール ドゥ カルティエ ウォッチ」は、さらに美しいエッジで「女性の時代」を表現しつつ、しなやかなリンクのブレスレットでフェミニンな魅力を際立てたタイムピース。ジュエリーとともに着ければ豊かに歌い、単体でカジュアルに着ければさりげなく微笑む。優美でグラマラスであると同時に、一人の女性としての精神性が波紋のように広がる複層的な「大人の美」の構築力は、さすがにカルティエとため息をつくしかない。

自分自身のパーソナリティと「望むもの」を正確に自覚し、人生の愉しみと歓びを味わう。オリジナルモデルの時代とは大きく変わった社会に贈る新たな女性賛歌、そんな同社の想いが伝わってくる注目コレクションだ。

パンテール ドゥ カルティエ ウォッチ

CRWSPN0007
27mm×37mm
MM、ステンレススティール
510,300円(税込)

CRWGPN0008
22mm×30mm
SM、イエローゴールド
2,214,000円(税込)

CRW2PN0006
22mm×30mm
SM、イエローゴールド、ステンレススティール
815,400円(税込)

CRWJPN0008
22mm×30mm
SM、ピンクゴールド、ダイヤモンド
2,624,400円(税込)

Vincent Walveryck © Cartier

Eric Sauvage © Cartier

John Balsom © Cartier

ドライブ ドゥ カルティエ ムーンフェイズ ウォッチ

CRWGNM0008
40×41mm、ピンクゴールド
2,473,200円(税込)

CRWSNM0008
40×41mm、ステンレススティール
915,300円(税込)

Vincent Walveryck © Cartier

Drive de Cartier

自然体でいて、洗練。カルティエが描く、これからの男性像。

「自分」を妥協しない男性たちへ。

自然体で、自立し、エレガントに洗練された大人を描いた名品

今年は「パンテール ドゥ カルティエ」の発表で沸いたSIHHだが、昨年の会場の話題をさらったのは、カルティエの男性向けコレクションだった。「ドライブ ドゥ カルティエ」は、1904年から現在に至るリストウォッチ製造技術の集大成として、大きな反響を獲得。たちまちベストセラーの一角を占めるに至った。今年のSIHHでは、その地位をさらに踏み固めるような意欲作が発表されている。

新作を見る前に、ドライブ ドゥ カルティエの概略を簡単におさらいしておこう。古典的なクッションシェイプを現代的な解釈で再構築したケースに、よく見るとヘキサゴン(六角形)を描く美しいベゼル。優雅なローマンインデックスと剣型針、ギヨシェ彫りのダイアル。瞬間的にはレトロスペクティブなデザインに見えてしまうが、じっくりと眺めているうちに、モダニズムが蜃気楼のように昇り立ってくる。いつも自然体のように見えて、その奥には洗練された知性と先端のライフスタイルを内包する…そんな現代の男性像が浮かび上がるウォッチに仕上がっている。

衝撃のデビューから1年を経て発表された新作コレクション

さて、今回のSIHHでは、2系統の新コレクションが注目を浴びた。「ドライブ ドゥ カルティエ ムーンフェイズ ウォッチ」は、その名の通り月の満ち欠けを示すインジケーターを搭載したモデルだ。同社が誇るスイス国内でも有数の一貫生産工場が新たに開発した自動巻ムーブメント「1904-LU MC」が搭載されているが、これは1/25日に1度修正すればOKという極めて高い精度を持つ。デザインと機構部分が非常に高い次元で融合する姿は、「真のマニュファクチュール」を掲げるカルティエの現在をそのまま表すものだ。

もうひとつの「ドライブ ドゥ カルティエ エクストラフラット ウォッチ」は、こちらも名称通り、何とわずか6.6ミリという薄さのケースが特徴。これはオリジナルモデルよりも約40%も薄い計算となるが、実はケースもひと回りコンパクトに創られているので、さらに快適なフィット感が期待できそうだ。また、着け心地もさることながら、手元を見下ろすたびに斬新な薄さを視認できるので、ウォッチに詳しい方ほど所有する歓びを刺激されることになるだろう。

デザインは、全世界で絶賛を浴びたドライブ ドゥ カルティエのイメージを踏襲。クラシカルでノスタルジックなルックスに目を奪われつつ、その仕上げの美しさまでじっくりと味わうのが、大人のウォッチファンの嗜みだ。

＊ ＊ ＊ ＊

毎年、後に「名品」と讃えられるモデルを送り出すカルティエ。次は、今年100周年を迎える各コレクションをご紹介しよう。

ドライブ ドゥ カルティエ エクストラフラット ウォッチ

CRWGNM0006
38×39mm、ピンクゴールド
1,814,400円(税込)

Vincent Walveryck © Cartier

John Balsom © Cartier

伝説は、静かに呼吸を続ける。タンク ウォッチの100年。

TANK

タンク ウォッチ

タンク アメリカン ウォッチ
CRWSTA0032
27x15.20mm、ミニ、スティール
364,500円（税込）
2017年11月発売予定

タンク アメリカン ウォッチ
CRWSTA0016
34.80x19mm、SM、スティール
464,400円（税込）

タンク フランセーズ ウォッチ
CRW4TA0008
25.35x20.30mm、SM、スティール、ダイヤモンド
785,700円（税込）

タンク ルイ カルティエ ウォッチ
CRWGTA0011
33.70x25.50mm、LM、ピンクゴールド
1,458,000円（税込）

Vincent Walveryck © Cartier

ルイ・カルティエ本人が手がけた1917年のレジェンドウォッチ

さて、今年注目のカルティエウォッチをもうひとつ紹介しておこう。上に掲載したのは、同社の眩いウォッチコレクションの中でもひときわ有名な存在のひとつである「タンク ウォッチ」。その歴史は、ちょうど今から100年前の1917年にまで遡る。

時は第一次世界大戦中、3代目であるルイ・カルティエは戦車の平面図からインスピレーションを得て、自らデザインを手がける。「タンク」と名付けられたこのウォッチの試作品はアメリカのジョン・パーシング将軍に贈られ、2年後の1919年に正式に発売。平和への切実な願いを込めながら、一方ではカルティエらしい豊かな美を詰め込んだこのモデルはたちまち人気を集め、やがてメゾンのアイコンとして長く愛され続けることになる。

男性にも女性にも愛され続けるアイコニックなコレクション

そのデザインを検証するには、まずシャープな角を持つフラットなケースの縦枠に注目してみるとよいだろう。下アタッチメントとの接点が隠されており、非常にシンプルなラインを形成していることがよく分かる。自由でエレガントなエスプリは、カルティエらしさと同時にフレンチデザインの特徴でもあると言えるだろう。

タンクのコレクションには、いくつかのバリエーションが派生しており、現在は男女兼用モデルを中心に展開されている。写真右の「タンク ルイ カルティエ ウォッチ」は、ルイ自身も愛用したというオリジナルに最も近いデザインが保たれたモデルだ。左の2つは、上下方向のサイズを大胆に増して優美さを強調した「タンク アメリカン」。やはり男女兼用で、ミニモデルも追加された。中央右の「タンク フランセーズ」は、リストウォッチというよりもブレスレットウォッチと呼びたくなる美しさだ。今年で誕生100年となる「タンク」コレクション。今後がますます楽しみだ。

＊　＊　＊

ここまで駆け足で今年の注目コレクションを紹介してきたが、カルティエの世界観は、文字や写真だけで半分も伝わらないだろう。手に取って眺め、腕に着けて確認すれば、人々が同社の製品を手放さない理由を感覚で理解できるはずだ。実物は下記店舗で体感できるので、ぜひ「美の高峰」の世界を覗いてみよう。

Biz Life Style Pick up

今春のリニューアルで開設されたカルティエ専用サロンが大好評
今月で11周年を迎える国内屈指のウォッチ＆ジュエリーメゾン

1964年創業、現在は石川・富山の両県内で11店舗を運営する老舗「エルサカエ」。2004年から本格的に高級機械式時計の取り扱いを開始し、その翌々年には金澤本店が誕生。スイス製高級腕時計に出会える専門店として、市民にとってはすっかりお馴染みの存在となった。

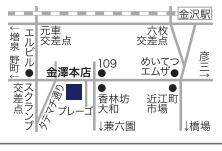
今月で開店11周年を迎える同店は、今春に大規模リニューアルを実施。超一流のブランド時計が放つ気品と世界観を堪能できる国内屈指のウォッチ＆ジュエリーメゾンへと進化を果たした。カルティエ専用サロンは特に好評で、コレクションも充実。本誌紹介モデルも多く取り揃えているので、ぜひ魅惑の体験を。

取り扱いブランド

カルティエ、ジャガー・ルクルト、オメガ、ジャケ・ドロー、グラスヒュッテ・オリジナル、ロンジン、ブルガリ、タグ・ホイヤー、グランドセイコー、ガランテ、オリス、ユンハンス、ジェイコブ、アクアノウティック、エポス、ボンバーグ、レイモンド・ウェイル、ほか

Love & Luxury of Life
L Sakae
エルサカエ

エルサカエ 金澤本店
石川県金沢市片町1-3-20　TEL.076-216-8888
営業時間/11:00～20:00 水曜休（12月は無休）



www.l-sakae.co.jp

カルティエ カスタマー サービスセンター
フリーダイヤル 0120-301-757
受付時間／10:00～20:00 無休（年末年始を除く）

www.cartier.jp